



3rd Youth Olympic Games Buenos Aires 2018 参加報告書

国際審判員（愛知県ボート協会所属）田畑 喜彦

10月7日から10日、アルゼンチン・ブエノスアイレスで市内中心部にある **URBAN PARK Puerto Madero(Dock 3)**を会場に **3rd Youth Olympic Games Buenos Aires 2018** が開催され、審判員として参加する機会をいただきました。ここに関係者各位に感謝申し上げます、ご報告させていただきます

1. 大会概要

① 今大会は **15歳から18歳**の選手を対象として **IOC** 主催により開催される大会で、夏の大会としては **2010年シンガポール、2014年南京**に次いで第**3回**大会として開催された。

② 開催種目は **32**、ボートは参加選手男女各 **48** 名（男女シングルスカル各 **24** 艇、ダブルスカル **12** 艇）により開催され、日本からは男子シングルスカルに滋賀県立瀬田工業高校の島田隼輔選手が参加した。

③ 大会会場は市内中心部の旧運河コースを利用したものであり、コースは **4レーン 500m** のスプリント用のコースであった。両岸にはオフィスやレストランが建ち並び、地元アルゼンチン選手が出場するレースでは両岸とコース上に架かるブエノスアイレスの象徴的な橋梁である **Puento de la Mujer(Woman's Bridge**：アルゼンチンタンゴを踊る女性をモチーフにした)上ではアルゼンチン国旗を振り回しての熱狂的な応援が繰り広げられた。



写真-1 コース上から見た Woman's Bridge

④ 周辺ではボートの他、カヌー、バスケットボール(3X3)、**BMX-Freestyle**、**Sport Climbing** が開催されていた。我々年配者には普段馴染みのない競技であるが、この地でも特に若者には人気で、オリンピック種目としても採用されるものがあり、この中から東京で活躍する選手が現れるのではと予感させられた。

⑤ 競技会場はボート他が行なわれる **URBAN PARK** の他、メイン会場の **YOUTH OLYMPIC PARK**（選手村はここにある）、**GREEN PARK** などがブエノスアイレスに配置されており、各地をシャトルバスが運行していた。なお、アクレディテーションを行なった際に市内のバス・地下鉄(全 **6** 路線)の無料利用券が配布されたので、**YOUTH OLYMPIK PARK** から **URBAN PARK** へ戻る際に地下鉄での戻り方をボランティアに尋ねたところ安全上の理由から乗ることは勧めないと言われ、バスで戻った。

2. 現地到着

- ① 米国・タンパからアトランタ経由でアルゼンチン・Ezeiza 空港に到着した。アトランタからは米国から審判参加する **MEISNER Kirsten** と同じ便に乗り合わせた。空港ではボランティアに案内されバスに乗車、他競技の **TD** などが乗り合わせていた。
- ② ホテル到着後ユニフォームのピックアップに。シャトルバスで **1** 時間半ほどかけてピックアップ場所である **GREEN PARK** に到着、事前にサイズを送っていたのであるが、体育館の更衣室で再度サイズを確認するために試着をすることに。これを全種目の **ITO/NTO** が行うために **1** 時間以上待たされようやくゲット、さらに **1** 時間以上かけてバスで帰路に。往復 **4** 時間かけてのユニフォームゲットの旅であった。同行した他国から来た審判も何のために事前にサイズを送ったのか訳がわからないとか、特に体型の大きな英国からの審判は **XXX** サイズが品切れでパンツは品切れの有様であった。

3. JURY メンバー

今回の **JURY** メンバーは以下の **12** 名であった。なお **FISA UMPIRING COMMISSION** からは **GRUDT Kris(USA)**、**PALFNER Stefanie(GER)**、**SENDA Takao(JPN)** の **3** 氏が参加し、今大会の特徴であるスプリントレースにおけるスタート・フィニッシュ、そしてリレー種目等の指導にあたった。

President of the Jury	BOLCIC Fabio / FISA 1080
Members	SCALA Adriana Maria / ARG 1754
	BROCHIER KIST Ana Lucia / BRA 1679
	PINSENT Matthew / GBR 1666
	GATTONI Danilo / ITA 1485
	TABATA Yoshihiko / JPN 1265
	MC IVER Vanessa Jacki / NZL 1625
	LERIN Jercyl / PHI 1493
	GLIDDON Brendan / RSA 1715
	GOLOB Borut / SLO 1207
	STOFER Christian / SUI 1730
	MEISNER Kirsten / USA 1575



写真-2 Woman's Bridge を背景に今回の審判団

4. 大会スケジュール

大会スケジュールは次表のとおりである。最終日の **10** 月 **11** 日は予備日として準備されていたが、レースは当初予定どおり実施された。各ラウンドについては以降で詳説する。レース間隔は **6** 分であるが、主審は **STATIC** 方式でありレース距離 **500m** を考えると特に問題はなかった。

表-1 大会スケジュール

SUNDAY		MONDAY		TUESDAY		WEDNESDAY	
7-Oct		8-Oct		9-Oct-17		10-Oct	
Training times on water: 08:30-12:00						Training times on water: 08:30-09:24	
Time	Time Trials	Time	Heats 1	Time	Quarter-Finals	Time	Semi-finals /Finals
15:30 - 15:45	JM1x	13:00	JM1x	15:00	JM1x	9:54	JM1x F F
		13:06	JM1x	15:06	JM1x	10:00	JM1x F E
15:50 - 16:05	JW1x	13:12	JM1x	15:12	JM1x	10:06	JM1x S C/D1
		13:18	JM1x	15:18	JM1x	10:12	JM1x S C/D2
		13:24	JM1x	15:24	JW1X	10:18	JM1x S A/B1
16:10 - 16:20	JM2-	13:30	JM1x	15:30	JW1X	10:24	JM1x S A/B2
		13:36	JW1x	15:36	JW1X	10:30	JM1x F D
		13:42	JW1x	15:42	JW1X	10:36	JM1x F C
16:25 - 16:35	JW2-	13:48	JW1x			10:42	JM1x F B
		13:54	JW1x		Semi-Finals	10:52	JM1x F A
		14:00	JW1x	15:48	JM1x S E/F1		
		14:06	JW1x	15:54	JM1x S E/F2		Semi-finals /Finals
		14:12	JM2-	16:00	JW1x S E/F1	11:02	JW1x F F
		14:18	JM2-	16:06	JW1x S E/F2	11:08	JW1x F E
		14:24	JM2-			11:14	JW1x S C/D1
		14:30	JW2-		Semi-Finals/Finals	11:20	JW1x S C/D2
		14:36	JW2-	16:12	JM2- SA/B1	11:26	JW1x S A/B1
		14:42	JW2-	16:18	JM2- SA/B2	11:32	JW1x S A/B2
				16:28	JM2- FC	11:38	JW1x F D
			Heats 2	16:34	JM2- FB	11:44	JW1x F C
		15:30	JM1x	16:44	JM2- FA	11:50	JW1x F B
		15:36	JM1x			12:00	JW1x F A
		15:42	JM1x	16:54	JW2- SA/B1	YOG MEDAL CEREMONIES	
		15:48	JM1x	17:00	JW2- SA/B2	12:30	JM1x Medal Ceremony
		15:54	JM1x	17:10	JW2- FC	12:40	JW1x Medal Ceremony
		16:00	JM1x	17:16	JW2- FB		
		16:06	JW1x	17:26	JW2- FA		
		16:12	JW1x	YOG MEDAL CEREMONIES		INTERNATIONAL MIXED TEAM RELAY	
		16:18	JW1x	18:00	JM2- Medal Ceremony		
		16:24	JW1x	18:10	JW2- Medal Ceremony	14:30 - 15:00	Teams Briefing
		16:30	JW1x				
		16:36	JW1x				
		16:42	JM2-			15:30	RELAY ROUND 1
		16:48	JM2-				
		16:54	JM2-			16:45	RELAY ROUND 2
		17:00	JW2-				
		17:06	JW2-			17:30	Relay Victory Ceremony
		17:12	JW2-				

5. コース概要

- ① 今大会でのコースレイアウト情報は図-1 程度しか得られていない。このレイアウト図を基に今大会特有な“魅せる大会”について説明したい。図が鮮明でないため分かりづらいのであるが、左側の黒塗の部分はスタートポンツーン、上の黒塗の部分固定された“SHIP”（米国から寄贈されたものであり、現在は博物館となっている。将来的にも動かすことの出来ない障害物とか。）、右下の黒塗の部分が“今大会唯一の栈橋”、中程にある四角い3つの黒塗が“橋脚”であり、これらは動かす事ができない固定物である。

② 全く個人的な意見ではあるがIOC主催によるYOGは各競技のスポーツとしての魅力についてオリンピックの前哨戦としての位置けのもと、各競技の魅力・観客動員力に基づき将来的なオリンピックの競技種目、参加選手数を押し量っているのではない

のかとの思いがある。今大会で同エリアのURBAN PARKにおけるバスケットボール(3X3)、BMX-Freestyle、Sport Climbing等は若者に人気が高い競技であり、今後の競技人口の増加も期待される。一方、ボート競技は東京オリンピックで参加者数が減らされる中、その魅力向上のためにもこのような都市型かつエキサイティングな競技スタイルを志向したのが今回のYOGではないのかと感じた。

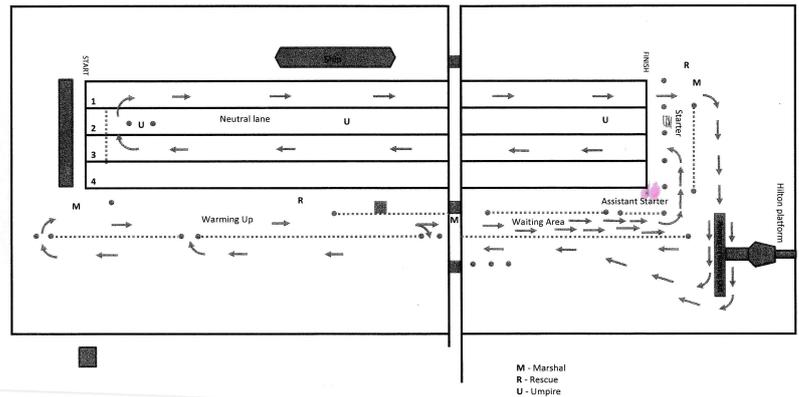


図-1 コースレイアウト (Time Trial)

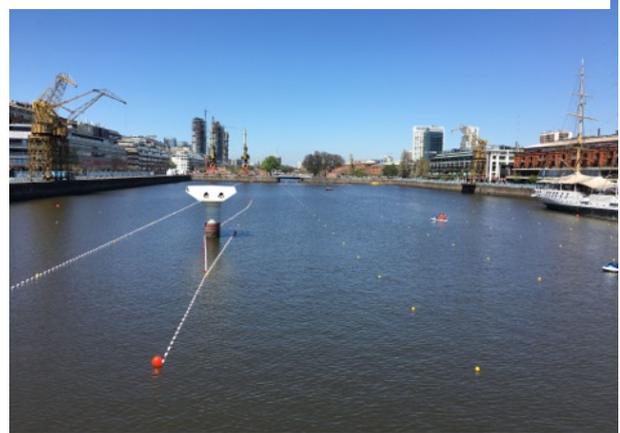


写真-3 コース脇にある橋脚とSHIP

③ その理由として、まずスプリント勝負の500mレースである。当初この大会に参加するとFISAよりアナウンスされ、その大会概要を調べた際にコースはブエノスアイレス中心部に位置し、レーン数は4、コース長は約500Mとのことであった。ブエノスアイレスはもちろん初めて訪れる都市であるが、こんなコースは経験した事がない。ただFISAの情報によればエキサイティングなレースとのことであった。実際に現地に訪れてみるとコースは都市の中心部に位置し、観客動員数も期待できる。両岸には多数のレストランも建ち並び、ブエノスアイレスの象徴とも言えるPuento de la Mujer(Woman's Bridge)下を通るコースである。なお、現地NTOメンバーに確認したところ国内選手は車で30分のところに2,000mのコースがありそこで練習するのだが、水質とゴミの問題で環境は劣悪とのことであった。

④ 当然のことながら、スタートフィンガーは4レーン用、その後方スタートポンツーンにはスターターの配置場所は無い。どういふことかと怪訝に思ったが、今大会ではポ



写真-4 スタートポンツーン&フィンガー

ンツーン上にはアシスタントスターターが配置され、当初は呼び込みからロールコール、アテンションまでをこちらからかけていた。スターターは右岸側線審小屋に線審と並んで座るという変則的な配置、その後スターターが呼び込みから全てを行うという方式に変更された。

- ⑤ 判定は一般的な FISA の方式で写真計時による。タイムトライアルでの計時は不明であるが、おそらく決勝線を通過する各艇の通過する画像から逆算したものと思われる。
- ⑥ 栈橋は前述のように一つのみで、出艇・帰艇が集中することもありコントロールコミッションは多忙を極めた。

6. レースラウンド

今大会は 4 レーン、500m のコースを使用しての大会のため、特別なプログレッションシステムを採用している。

① Time Trials

- 出場する全てのクルーがファーストラウンドは Time Trials に参加するのだ。また、その様式も全長 500m のコースを判定側から Flying Start し、スタート側のブイでターンして戻るといった方式であった。
- 各クルーは審判の合図により 30~45 秒間隔でスタートし往復約 900m のコースを 2 本漕ぐ。その合計タイムで次のラウンドの組み合わせが決まるのだ。なお、タイムは判定に設置される写真計時システムにより計測された。

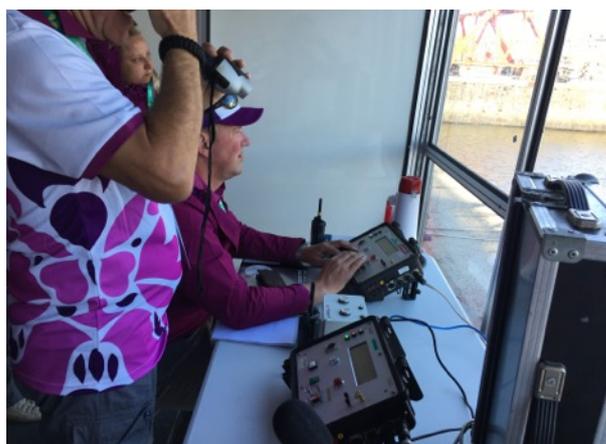


写真-5 スターター（着席）と線審



写真-6 判定



写真-7 出艇・帰艇栈橋

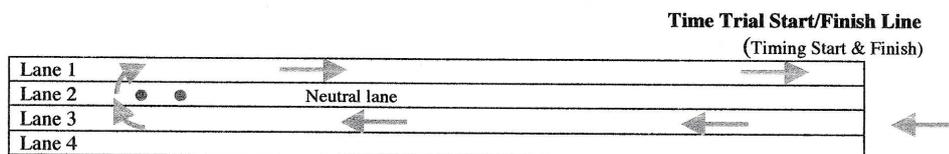


図-2 Time Trial の説明

- 今大会のシングルスカルには大陸枠(オセアニア)として **KIR** や大学枠として **LBN, NCA, UGA, VIN** と言った、決してポート王国で無い国からの代表選手も参加した。後続の選手に追い越されたり、定められたブイでターンせずショートカットしてしまうなどのトラブルもあったが、大勢に影響なしとの判断から、そのまま次のラウンドへ進んだ。
- **JM 1 X, JW 1 X** は上位 **16** クルーは次のラウンドは **Quarter-Finals(A-D)**となるが、下位 **8** クルーは次のラウンドが **Semi-Finals E/F1,2**、各上位 **2** クルーが **Final E**、各下位 **2** クルーが **Final F** ラウンドがとなる。
- **JM2-**、**JW2-**の場合は、上位 **8** クルーは次のラウンドが **Semi-Finals A/B1,2**、下位 **4** クルーは **Final C** に進む。
- 審判としてはレース間隔に従い、スターターとして“(Country)” – “Start Rowing”の **Flying Start** の合図、と“(Country) – Go!”のスタートの合図をかける。またブイを確実にターンするか、追い越されるクルーは追い越すクルーの邪魔をしないかを各所において確認した。
- なお、この方式ではすでにお気付きかと思うが、ブイをターンする時間も含まれた **900m** のレースである。サイドロウでターンするクルーもあればダブルサイドワークでターンするクルーも見られ、ターンの稚拙さによっても組み合わせが決定された。

② Quarter Finals

- 大会 **2** 日目の **JM1X Quarter-Finals** で **HKG** の選手が沈をした。再乗艇を試みる際に大きく時間を費やし、ようやく救助艇と主審の手を借りて乗艇した。その時点で当然 **HKG** は **DNF** と判断し主審は白旗を上げたのだが、乗艇した **HKG** がその後観客の拍手喝さいを浴びながら競漕スピードでゴールした。審判長席からは再度白旗を上げるように無線が入った。自力乗艇では無いがこの **HKG** クルーは **Semi-finals C/D** の最下位として出漕した。この件に関しては主審を務めた審判からも疑義を唱えたのだが、まずは安全に配慮、そしてこのような大会であることから教育的な配慮により次のラウンドへ進ませたとのこと。この選手は **Time Trials** のラウンドで上位 **16** クルーの権利を獲得している。このため沈をしたがその後乗艇（自力乗艇では無い）をし決勝戦を通過したとして、次のラウンドには進む事ができた。**FISA** の **Umpiring Commission** の中でも議論があり、すでに **C/D**（今回は **4X4=16** 位以上）の権利は取得しているので最下位の **16** 位としてはどうかとのこと。今後の **FISA** の判断を待ちたい。

7. INTERNATIONAL MIXED TEAM RELAY

最終日の全種目 **Finals** が終了後に **INTERNATIONAL MIXED TEAM RELAY** が開催された。全く初めての経験であり、事前に選手・**ITO/NTO** 向けに以下の説明があった。

- ① 今回参加の全 72 クルーを Youth Commission が事前 3 ラウンドの結果により均等なチーム力になるよう 8 チーム 9 クルーに分ける。
- ② 各チームは 2 チーム毎のマッチレースで 2 ラウンド行い、その合計タイムで順位を決定する。
- ③ 各チームのボートは以下のとおり。
3JM1X、3JW1X、1 or 2 JM2-、1 or 2 JW2-
(4 チームは 1JM2-と 2JW2-、4 チームはの逆)
- ④ レース長は 250m。
- ⑤ スタートは停止して行い、以降はリレー方式、False Start の場合 250m と 500m の戦場に配置された審判が判断し、5 秒のペナルティを課す。
- ⑥ チーム内でのスタート順は各チームでキャプテンを決め、キャプテンを中心にチーム内でのスタート順を決める。

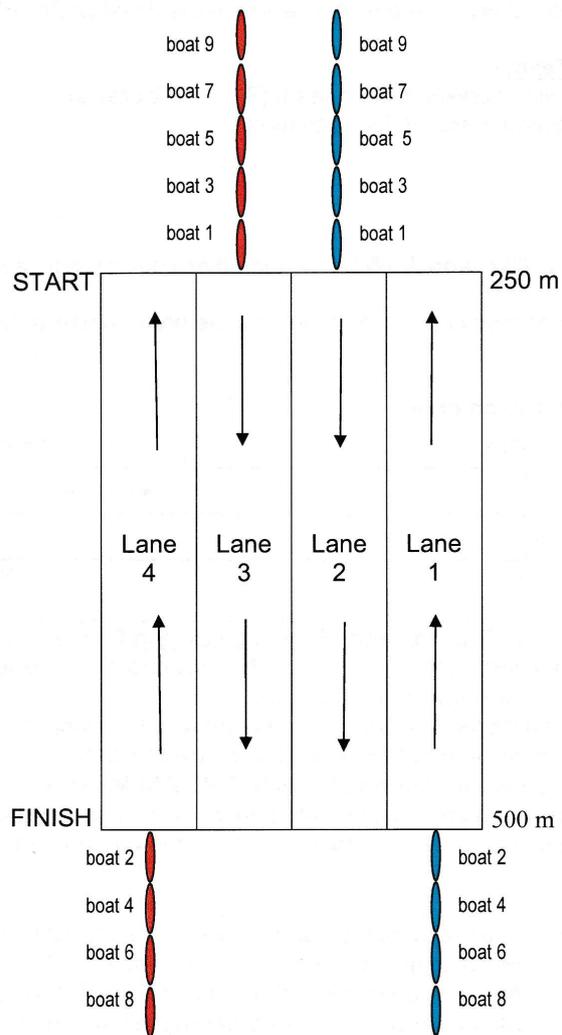


図-3 コースレイアウトとレース進行方法

選手たちに配布された説明会での資料の最後には”Have fun, make friends and be fast”と大きく記されていた。リレー順は各チームが各自決定した。このため男女、1X、2-入り混じってのレースとなり、順位がめまぐるしく変わる。審判参加している我々にとっても、エキサイティングなレースとなった。

レース終了後には参加選手全員での記念撮影を行なおうと Youth Commission からアナウンスされたものの非常に集まりが悪く、中には選手村へ帰ってしまった国もあったようだ。しかし、最後まで残った選手たちは大会を通じ知り合いになった各国選手たちと一緒に写真に収まった。数年後、この中から多くの選手達がシニアの世界で競い合うものと予感した。



写真-8 Team Relay 終了後の選手たち

8. おもてなしと周辺施設

- ① 大会開催前には市内中心部での開会式が開催された。ホテルから歩いて行ける距離であったので参加してみたのだが、圧倒されたのはその人数と人混みである。どうしてこんなに集まるのだろうかと思うような人数が集まり、開会式の開催を待っていた。



写真-9 開会式を待つ群衆

大統領が出席するとのこともあり、我々は予定されている開始時間に余裕を持って待っていたのだが、大統領の到着が30分ほど遅れ、なかなか始まらない。ITOには観覧席も用意されておらず、その場に立って待つしかない。中には座り込んで待つ群衆もいたが、ITOメンバーの何人かは開始を待たずにホテルへ戻ったようであった。

- ② ボートが開催された URBAN PARK では、カヌー、バスケットボール(3X3)、BMX-Freestyle、Sport Climbing が開催されており、終日賑やかな音楽の中、IDカードを見せるだけでこれら競技を観覧することができた。そこでは音楽が掛けられる中、嬉々として競技に打ち込む若者たちが躍動し競い合っていた。日頃馴染みのない競技であるがボート会場と徒歩圏内で行われていたため日本選手の活躍も見ることができた。



写真-10 BMX-Freestyle



写真-11 Sports Climbing

- ③ URBAN PARK 会場内の路上にはいくつもの“だまし絵”が描かれていた。肉眼で見ると普通の絵なのだが、足跡が描かれた位置でスマホで撮影し、その写真を見ると3Dとなって見えるという不思議なアートもあった。
- ④ 施設という点で南米の地下鉄を紹介したい。市内には地下鉄が6路線敷設されており、5路線は市内の中心部に乗り入れている。OCから配布された無料利用券を使い、乗換えを複数回行ってみた。車両は1編成4両程度、車内には落書きなどは見当たらない。空気が乾燥している時期という事もあるのだろうが、埃っぽいのが少々気になった。

9. 帰路

ホテルから空港へは渋滞が予想されるため、フライトの5時間前にはホテルを出るよう勧められ、バスを予約したのだが定刻を過ぎてもバスは来ない。まあこんなものだろうと思ったのだが、その間、今回の **Event Manager** の **Ms. AGUIRREGOMEZCORTA Victoria (FISA 審判員)** に電話するのだが、残念ながら留守電に。結局ホテルで1時間待つこととなってしまった。予約したはずのバスは何故来なかったのか、いまだに不明である。

1時間遅れでやって来た次のバスに乗って空港へ向かう時、正直心配になったのだが、高速に乗ると、そこには大会関係者の車両だけが利用できる専用レーンが。隣の車線は大渋滞なのだが、バスの車線はガラガラで、空港まではホテルから約1時間、余裕を持ってチェックインできた。



写真-12 会場内の“だまし絵”

10. 最後に

南米・アルゼンチンのブエノスアイレスで開催された **3rd Youth Olympic Games Buenos Aires 2018** に審判員として参加させていただき、新しいスタイルの **Rowing** を体験させていただきました。都市部での開催、レストランで食事を摂りながら眺めるスプリントレース、そしてエキサイティングなリレー。このようなコンパクトな開場（ボートコース）は国内でも開催できる魅力的な場所が多数あるものと思います。

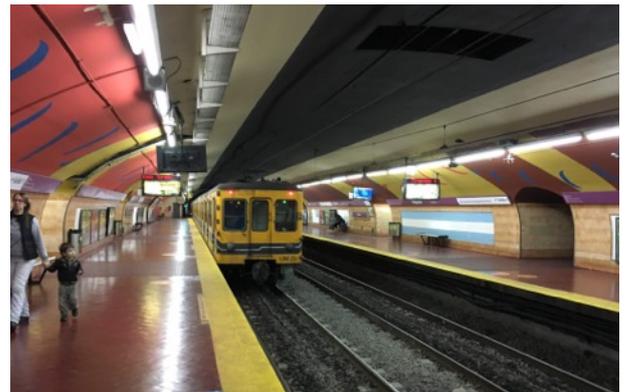


写真-13 ブエノスアイレスの地下鉄

今後微力ではありますが今回の経験を国内で同種スタイルの大会開催時に役立たせていただくことで、今回派遣いただいた関係者みなさまへのお礼ができるものと考えております。



写真-14 高速道路の専用レーン



写真-15 会場内の少女